

乙訓保健所管内の感染症発生動向調査による週報

(インフルエンザ定点、小児科定点、眼科定点、全数報告)

第 36 週

2019年9月2日

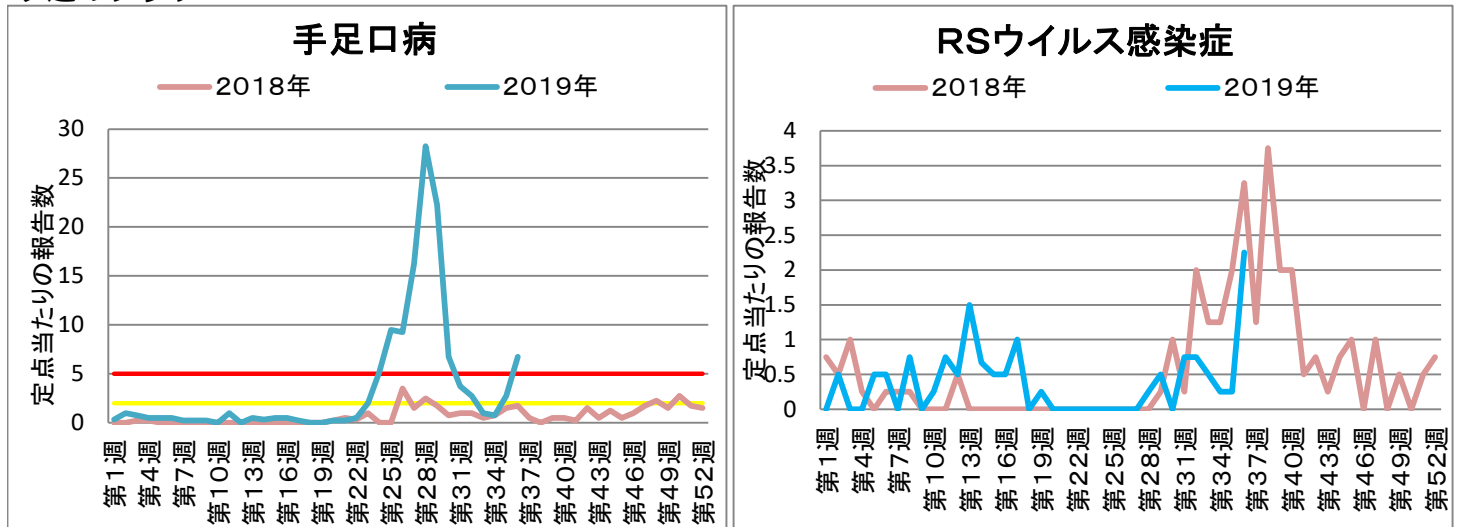
～

2019年9月8日

今週のコメント

- 手足口病の報告数は再度増加し、第二のピークを作りつつあります(定点あたり6.75)。夏休みが終わった影響が考えられます。この疾患は手のひら・足底・口腔粘膜に水疱性発疹が出るウイルス疾患です。患者の過半数は2歳以下です。予防には有症状時の飛沫感染予防と日頃からの手洗いが大切です。
- RSウイルス感染症の報告数が増加しました(定点あたり2.25)。この疾患は主に冬に流行する風邪の一種ですが、ここ数年は夏から流行が始まっています。症状は鼻汁や発熱、のちに咳が出ます。特に生後数か月以内の乳児では細気管支炎や肺炎となることがあり要注意です。飛沫感染と接触感染が主です。
- 咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎も比較的多く報告されました。
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1件ありました。

今週のグラフ



* 赤線 流行警報基準値です 青線 警報継続基準値です

今週の報告状況

疾病名	定点当たりの報告数	疾病名	定点当たりの報告数
インフルエンザ	0.14	伝染性紅斑	0.50
RSウイルス感染症	2.25	突発性発しん	1.00
咽頭結膜熱	2.25	ヘルパンギーナ	0.75
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2.25	流行性耳下腺炎	-
感染性胃腸炎	5.25	急性出血性結膜炎	-
水痘	-	流行性角結膜炎	-
手足口病	6.75		
1～4類、5類全数報告疾病			
腸管出血性大腸菌感染症(1人)			

定点当たりの報告数 = 1週間の報告件数総数 / 定点数

* 乙訓管内 インフルエンザ定点 : 7箇所

小児科定点 (インフルエンザ以外の疾病) : 4箇所

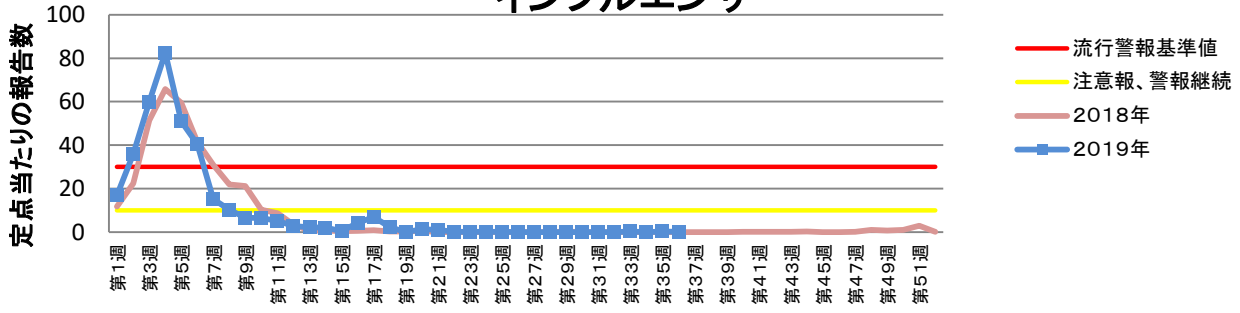
眼科定点 : 1箇所

参考資料等

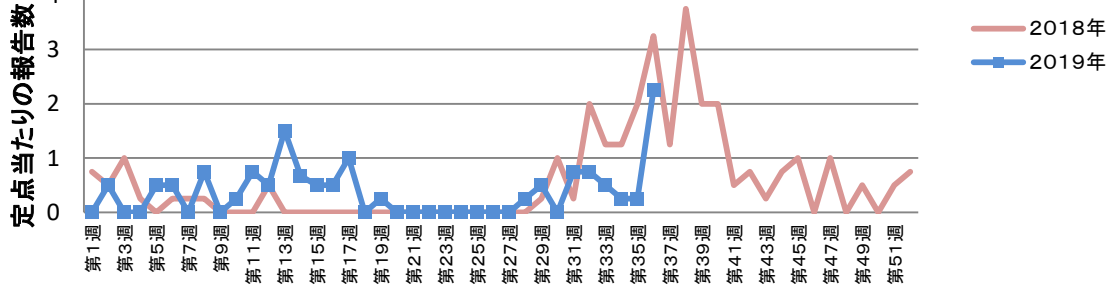
報告週対応表 <http://www.nih.go.jp/niid/ja/calendar.html>

乙訓保健所管内定点当たり報告数推移

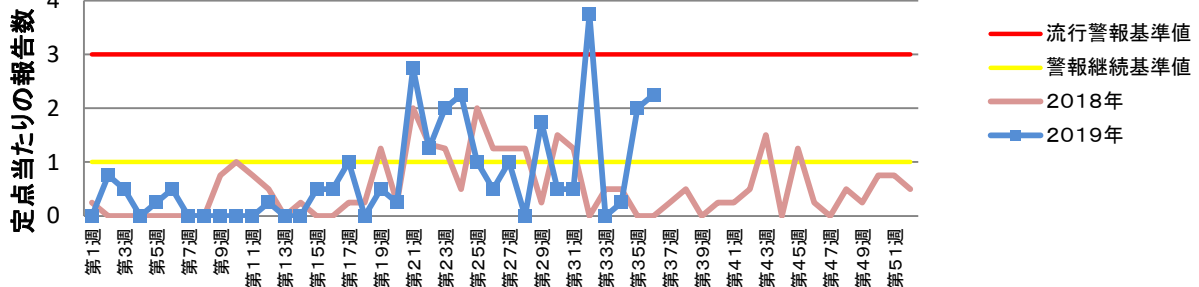
インフルエンザ



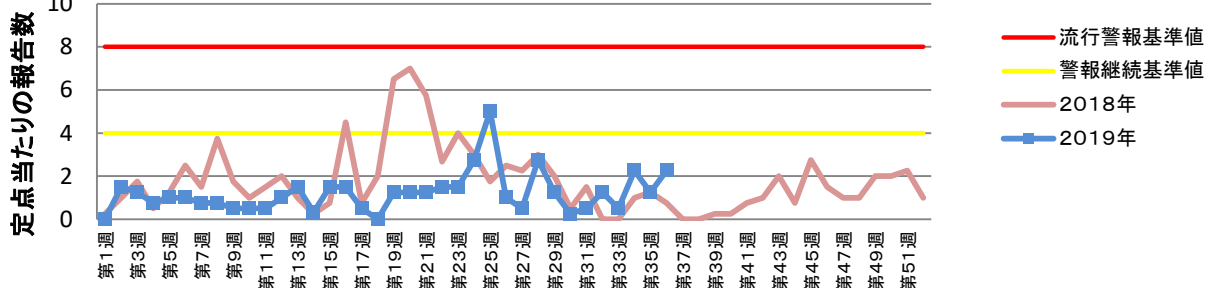
RSウイルス感染症



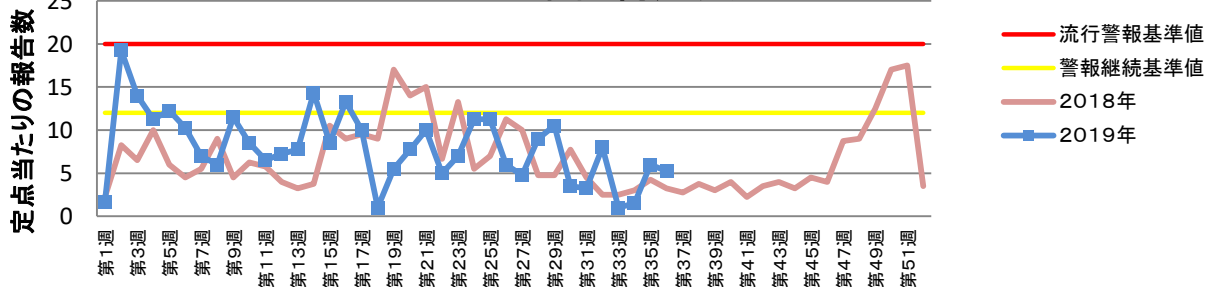
咽頭結膜熱



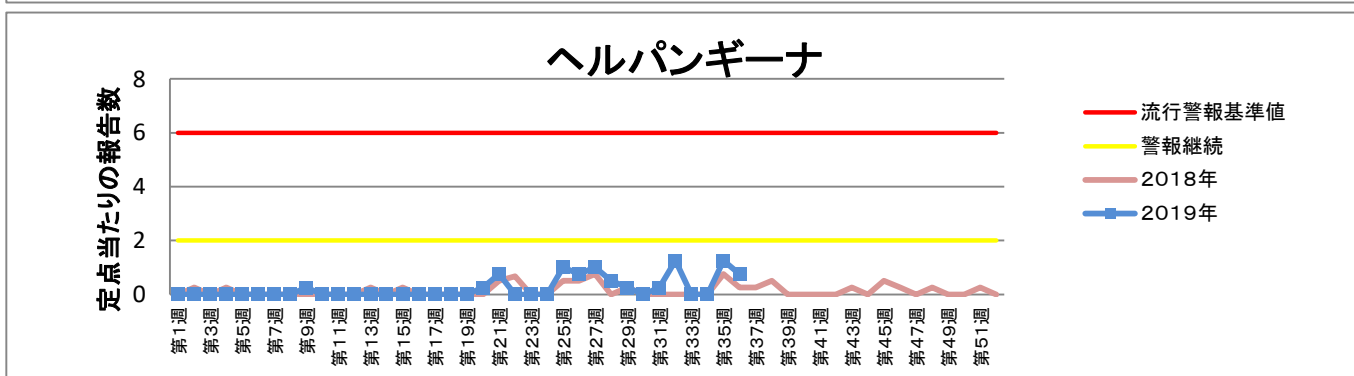
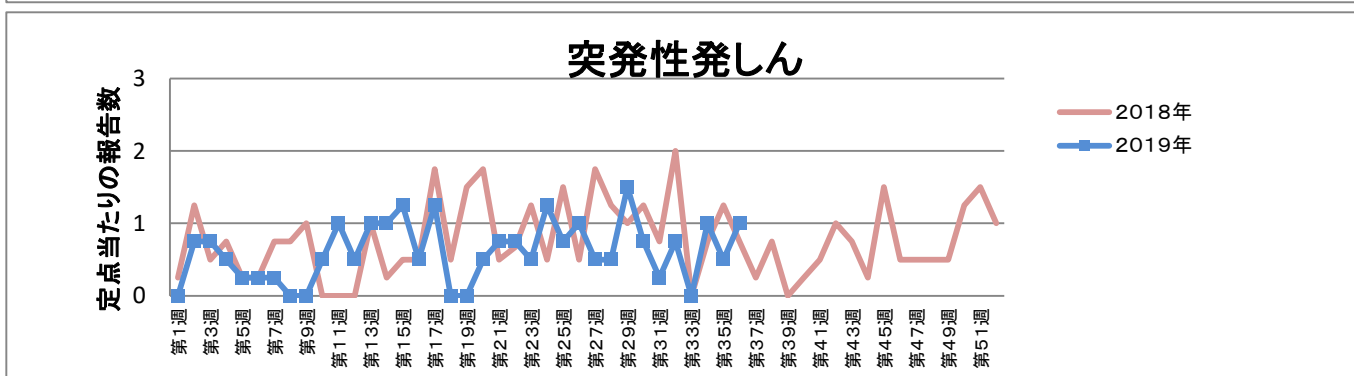
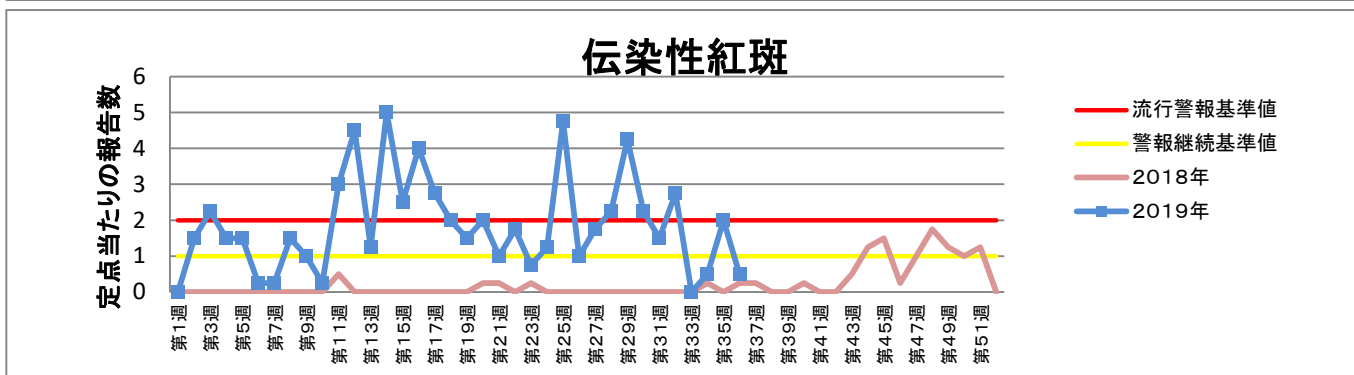
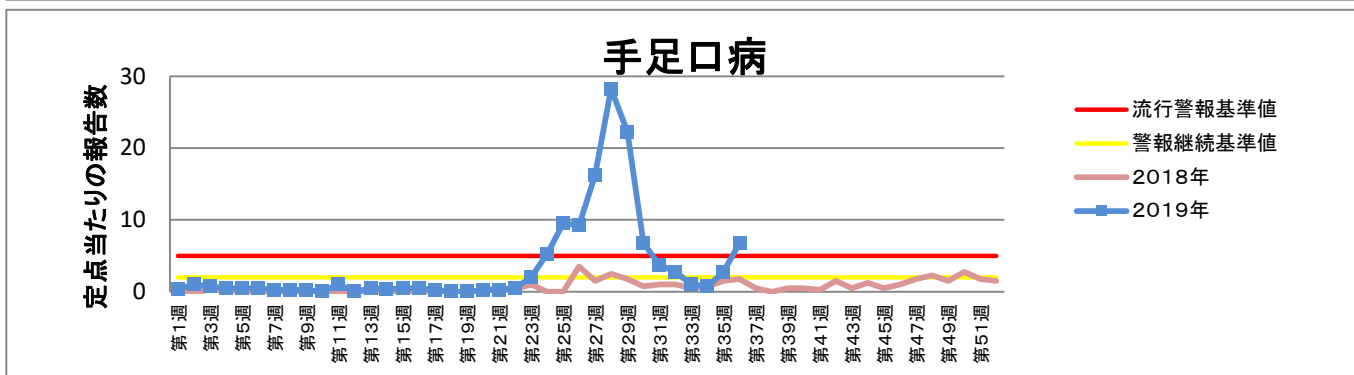
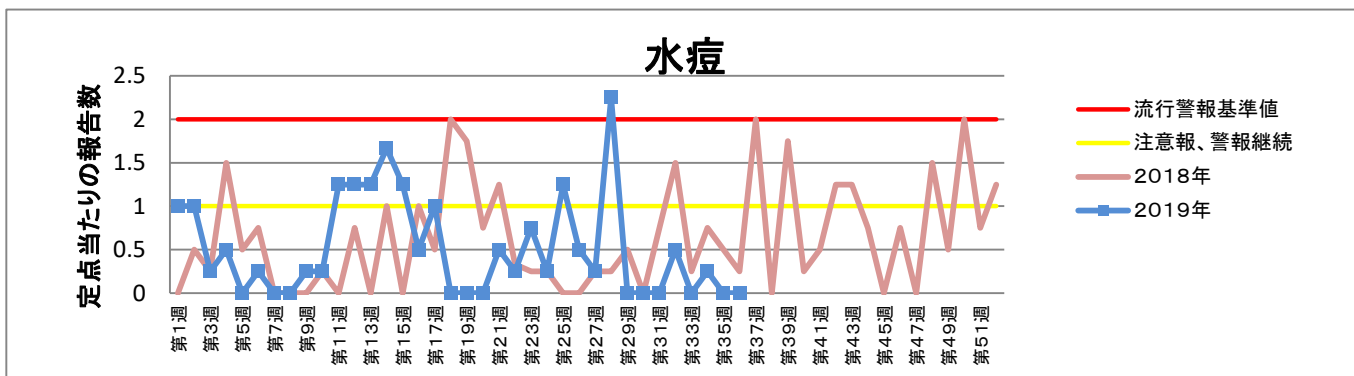
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



感染性胃腸炎

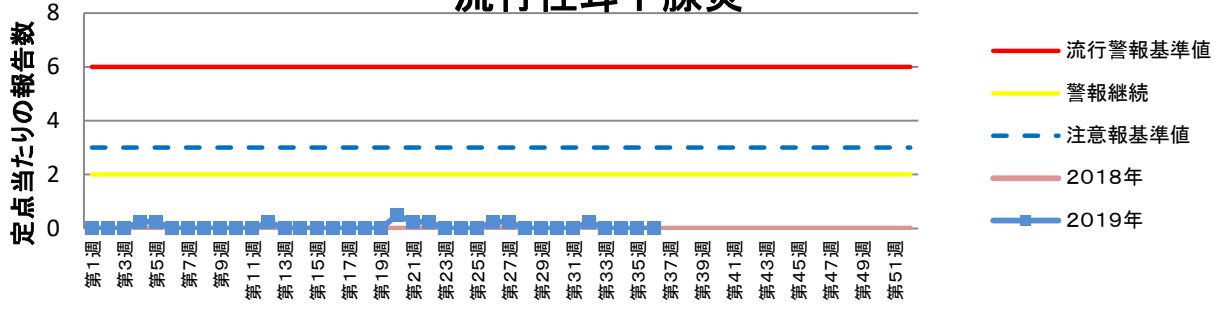


乙訓保健所管内定点当たり報告数推移

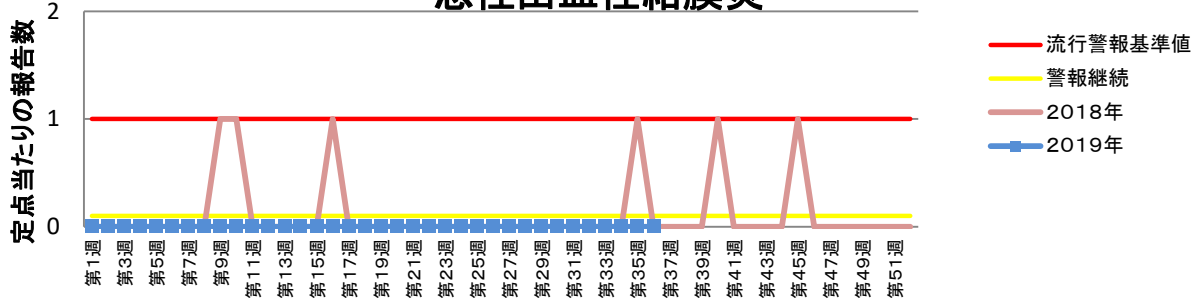


乙訓保健所管内定点当たり報告数推移

流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎



流行性角結膜炎

